

国際共同研究事業 令和 5(2023)年度実施報告書

令和 6 年 4 月 12 日

独立行政法人日本学術振興会理事長 殿

[日本側代表者所属機関・部局]

鹿児島大学・法文学部

[職・氏名]

教授・尾崎孝宏

[課題番号]

JPJSJRP 20211705

1. プログラム名 英国との国際共同研究プログラム(JRP-LEAD with UKRI)

2. 研究課題名

(和文) ポストコロナの内陸アジア牧畜民社会に関する比較研究:モンゴルおよびキルギスの事例

(英文) Comparative research on pastoral societies in post-Covid19 Inner Asian countries: case study of
Mongolia and Kyrgyzstan

3. 共同研究実施期間

令和 3 年 12 月 1 日 ~ 令和 6 年 11 月 30 日 (3 年 0 ヶ月)

4. 相手国側代表者(所属機関名・職名・氏名【全て英文】)

University of Oxford, Departmental Lecturer, Ariell Ahearn

5. 当該年度実施状況

- ・当該年度実施計画書の「当該年度実施計画の概要」の内容と対応させつつ、当該年度の実施状況を簡潔に記載してください。再委託又は共同実施を行った場合は、それぞれの実施状況がわかるように記載してください。
- ・当該年度又は前年度(複数年契約を締結し繰越を行った場合)の各費目における増減が研究経費総額の 50% (この額が 300 万円を超えない場合は 300 万円)に相当する額を超えた場合は、その理由と費目の内訳を変更しても計画の遂行に支障がないと考えた理由を記載してください。

本国際協働プログラムは 2021 年 12 月より開始した。2023 年度は本格的な調査活動の 2 年目として、1) 小チームによる牧畜地域を対象とした現地調査、2) 若手フィールド研究者向けサマースクール、3) ポスドク研究者の雇用と活用、4) インターネットを活用した調査データの蓄積・共有と外部への情報発信、5) 中間成果報告会としての国内研究会の実施、6) 最終報告書としての書籍(学術論文集)の刊行準備を行った

- 1) 小チームによる牧畜地域を対象とした現地調査については、2023 年 8 月にキルギスタン国中部および東部で、2023 年 6 月にモンゴル国中部、同 7 月にモンゴル国西部、同 8 月にモンゴル国中部で実施した。これら現地調査には英国側メンバーおよび現地研究者も参加し、それぞれ小チームを編成して実施した。調査成果は後述する最終報告書に掲載される予定である。なお当初予定していたモンゴル国南東部および北部の現地調査は、主に予算面の事情により日本側メンバーの有する科研費など別予算で実施した。
- 2) 若手フィールド研究者向けサマースクール: 英国側の担当で、キルギスタン国の中央アジア大学で 8 月 3 日から 9 日まで、若手フィールド研究者向けのサマースクールを実施した。日本側メンバーも 3 名が講師として参加した。サマースクール後半の 3 日間は地方(ケミン県)でエクスカージョンを実施し、フィールドの現場から具体的に調査方法などについてレクチャーが行われた。
- 3) ポスドク研究者の雇用と活用: 前年度より継続して 2023 年も、日本側で若手研究者の育成を目的としてポスドク研究者を雇用した。当研究者は日本側 PI の指導のもとで研究を実施するとともに、日本側・英国側双方の PI を中心として隔週ペースで開催する非公式ミーティングへの参加や事務的なやり取り通じて、日本と英国間の学術交流のハブとしての機能を果たしている。また本年度は国内で行われた研究会の企画、広報なども担当し、OJTを通じて着実な能力の向上が見られた。
- 4) インターネットを活用した調査データの蓄積・共有と外部への情報発信: 英国側がオックスフォード大学内に設置したデータ共有用サーバを活用してデータの蓄積を進めただけでなく、報告書の編集作業も同サーバを活用して行っている。また英国側がオックスフォード大学内に設置したウェブサイト用サーバを活用し、本プロジェクトの目的、メンバー、活動実績などに関して、英語に加えて日本語でも情報発信を行っている。本プロジェクトのウェブサイトである「Post-Pandemic Societies in Inner Asia (PPIA)」(<https://www.ppia.ouce.ox.ac.uk/>)は高い評価を得て、プロジェクト終了後にオックスフォード大学の図書検索機関であるボドリアン図書館のウェブ・アーカイブに収蔵されることが決定している。
- 5) 中間成果報告会としての国内研究会の実施: 2023 年 5 月 15 日に、日本側が主催して東京外国語大学で研究会「Pastoralism, Spirituality, and Performance: Mongolia and Kenya」を実施し、英国側メンバー 1 名およびゲストスピーカー 1 名も対面で参加した。また、6 月に別途日本側が主催して明治大学で実施した研究会「Mongolian society and environment in post-COVID19 era」にゲストスピーカーとして Charlotte Marchina 氏(フランス国立東洋言語文化学院: 当時は日本滞在中)の参加を得た。さらに 2024 年 2 月には東北大学において PPJA Winter Meeting in CNEAS を開催し、国内のモンゴル研究者を広く招聘してプロジェクトの成

果報告を行うとともに、今後の展望について議論を行った。

- 6) 最終報告書としての書籍(学術論文集)の刊行準備:2024 年度に「Rural transition in post-pandemic Mongolia and Kyrgyzstan」を英国で刊行すべく、原稿の収集および編集者による内容チェック、著者によるリライト作業が進行している。本書は英国側・日本側の全メンバーに加えて、本プロジェクトに関与したモンゴル及びキルギスタンの現地研究者による英語論文が収録される予定である。また出版社については英国 The White Horse Press 社が出版を承諾しており、現在オープンアクセス化を含めた出版契約交渉の最終段階に到達している。

なお、本年度も再委託・共同実施は行わず、実施主体は日本側が鹿児島大学、英国側がオックスフォード大学であった。

7. 研究発表(当該年度において本共同研究の一環として本事業による支援を受けたことを明示して発表したものについて記載してください)

[雑誌論文] 計(4)件 うち査読付論文 計(1)件

通番	共著の有無 ^{*1}	著者名、論文標題等 ^{*2}
1		廣田千恵子「クルグズ牧畜民による住居内調度品の制作と使用の現在－クルグズ共和国ナルン州夏営地調査報告－」『千葉大学ユーラシア言語文化論集』25号、2023年、123-146、10.20776/S21857148-25-p123、査読無。
2		Kamimura, Akira “Between the Logic of Killing Kid Goats and the Ethics of Concern for Livestock” 発表要旨集“Nomadic Ethics and Intercultural Dialogue Conference”、2023年、p.20、査読無。
3		尾崎孝宏「遊牧実践に付与された諸条件－モンゴル近現代におけるインフラの影響を例に」『沙漠研究』33-1:9-15、2023年、 https://doi.org/10.14976/jals.33.1.9 、査読無。
4		Haiyan Bao, Jiligen Fu, Takahiro Ozaki, Zhenzhen Liu and Saqiri “Human Mediation Between Mother Animals and Their Young in Livestock Reproduction - A Case Study on Lamb Bags” Nomadic Peoples: volume 28 number 1, pp.3-18, 22 March 2024, https://doi.org/10.3828/whpnp.63837646691041 、査読あり。

[学会発表]計(11)件 うち招待講演 計(4)件

通番	共著の有無 ^{*1}	発表者名、発表標題等 ^{*2}
1		廣田千恵子「クルグズ牧畜社会における物質文化の現在－2023年夏営地調査報告－」第43回モンゴル研究会、2024年、千葉(ハイフレックス)
2		Chieko Hirota “Diversity of Seasonal Movement by Kazakh Pastoralists in Mongolia: A Comparative Study of Cases in Four Counties of Bayn- Ulgii province” PPIA Project Seminar in Tokyo “Pastoralism, Spirituality, and Performance: Mongolia and Kenya”, 2023, 東京, 招待講演
3		Chieko Hirota “The characteristics and social significance of feasting in Mongolian Kazakh society” European Society for Central Asia Studies (ESCAS), 2023, Almaty: Kazakhstan
4		Takahiro Tomita “Is small-scale dairy production in suburban areas sustainable? Characteristics and transformation of urban and rural relationships in Mongolia” 19th IUAES-WAU World Anthropology Congress, 2023, インド・ニューデリー
5		Takahiro Tomita “Comments” ポストコロナ時代のモンゴル社会と環境／Mongolian society and environment in post-COVID19 era, 2023, 東京, 招待講演
6		Takahiro Tomita “Environmental and Cultural Interaction in Modern Mongolia” PPIA Winter Meeting, 2024, 仙台, 招待講演
7		Takahiro Ozaki “Disaster and the Ethics of Mobility: a Case Study of Storm in Mongolia 2008” Nomadic Ethics and Intercultural Dialogue, 2023, Ulaanbaatar: Mongolia
8		Takahiro Ozaki “Comparison between pastoralism of suburban and remote pasture in post COVID-19 pandemic Mongolian society” 19th IUAES-WAU World Anthropology Congress2023, 2023, Delhi : India

9		尾崎孝宏「モンゴルにおけるポストコロナの牧畜戦略」第29回 生態人類学会研究大会、2024年、福井
10		Moe Terao “Trust in Livestock Foods: A Report on Dietary Practices in Rural Mongolia During/After the Pandemic” 19th IUAES-WAU World Anthropology Congress2023, 2023, Delhi: India
11		Moe Terao “An anthropological study on the art of “encounter” in the pastoral area of Western Mongolia” PPIA Winter Meeting in CNEAS, 2024, 仙台, 招待講演

〔図 書〕 計(1)件

通 番	共著の有無*1	著者名、著書名等*2
1		Takahiro Tomita(編著者: İlhan Şahin, Abilabek Asankanov, Üçler Bulduk, Saadettin Yağmur Gömeç, Güljanat K. Ercilasun, M. Bilal Çelik, Erhan Taşbaş, Aymira Taşbaş, Dinara Duisebayeva), Altay Toplulukları: Hayvan ve Hayvancılık (分担執筆: Changing Use of Dairy Products in Rural Mongolia), the Union of Turkish World Municipalities (TDBB), 2023, 641 (担当ページ: 577-588), ISBN: 978-605-2334-16-4

*1 相手国側参加者との共著(共同発表)がある場合は○と記入。

*2 当該発表等を同定するに十分な情報を記載すること。例えば学術論文の場合は、著者名、論文標題、雑誌名、巻号、発行年(西暦)、最初と最後の頁、掲載論文の DOI、学会発表の場合は発表者名、発表標題、学会等名、発表年(西暦)、発表地(国名、国外開催の場合のみ)、図書の場合は著者名、著書名、出版社名、発行年(西暦)、総ページ数、ISBN、など(順番は入れ替わってもよい)。相手国側参加者との共著となる場合は、著者名が複数であっても省略せず、その氏名を記入し下線を付すこと。

*3 足りない場合は適宜行を追加すること。

8. 本事業による産業財産権の出願・取得状況(当該年度に出願又は取得したもの)

〔出 願〕 計(0)件

通番	産業財産権の名称、発明者、権利者、産業財産権の種類、番号、出願年、国内・外国の別
1	

〔取 得〕 計(0)件

通番	産業財産権の名称、発明者、権利者、産業財産権の種類、番号、取得年、国内・外国の別
2	

* 必要に応じて、欄を追加してください。